体育分野　指導案の作成例（中学校）

第１学年　保健体育科学習指導案

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　日　時：令和　　年　　月　　日（　）　　校時

　　　　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　 場　所：○○市立○○中学校　体育館

対　象：１年○組　○名

指導者：（職名）○○　○○

１　単元名　　球技：ゴール型（サッカー）

２　単元の目標

（１） 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。

ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をす

ることができるようにする。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（知識及び技能）

（２） 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

（思考力，判断力，表現力等）

（３） 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとすること、仲間の学習を援助しようとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学びに向かう力，人間性等）

「評価の観点」と混同しない。学習指導要領解説の□囲みを参考に示す。語尾は、指導者の立場で書き、「～できるようにする。」と記載する。

※学習指導要領解説から、（知識及び技能）（思考力，判断力，表現力等）（学びに向かう力，人間性等）の指導内容別に示す。→「評価の観点（知識・技能）（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）」と混同しないこと

３　指導にあたって

1. 単元観

①指導者から見た特性

・運動の形式や技術の仕組み、系統性など

　　　　・生徒の心身の発達に与える効果など

②生徒から見た特性

・その運動を学ぶ意義やその運動をどのように楽しめるかなど

　（２）生徒観

　　　　①学習の経験状況、興味・関心、意欲、学び方の状況、技能の習得状況

※体力実態、質問紙調査結果（客観的な数値も交えて）、男女数については、内容を精査し記載する。

　　　　②体力実態、質問紙調査結果、男女数

　　　　③本単元における生徒のよさと課題の整理

　（３）指導観

　　　　①「単元観」「生徒観」を踏まえた指導の方向性及び具体的な指導の手立てなど

　　　　②（研究テーマとの関連）

４　内容のまとまりごとの評価規準及び単元の評価規準　　第1学年及び第2学年　例

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 内容のまとまりごとの評価規準 | ・※「指導と評価の一体化」（国立教育政策研究所）から引用すること・ | ・・ | ・・・・・ |
| 単元の評価規準 | ○知識①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 | ○技能①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。※ネット型、ベースボール型は省略 | ①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。 | ①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。②健康・安全に留意している。 |

◎単元の評価規準については、該当学年の評価規準を選択し、記載する。

・知識については、文末を「～について、言ったり書いたりしている。」あるいは、「～ついて、学習した具体例を挙げている。」として、評価規準を作成する。

・技能については、文末を「～（行い方・対処）について、（～が）できる。」として、評価規準を作成する。

・思考・判断・表現については、文末を「～している。」として、評価規準を作成する。

・主体的に学習に取り組む態度については、意思や意欲を育てるという情意面の例示に対応し、文末を「～しようとしている。」として、評価規準を設定する。ただし、健康・安全に関する例示については、意欲を持つことにとどまらず実践することが求められているものであることから、「～に留意している。」「～を確保している。」として、評価規準を設定する。

５　指導と評価の計画（１年生）

　（１）単元の指導と評価計画　　７時間目　例

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 学習評価の流れ | 　 | １ | ２ | ３ | ４ | ５ | ６健康観察・本時のねらいの確認・準備運動 | ⑦ | ８ | ９ | １０ |
| 10　　　　　　　　　　20　　　　30　　　　40　　　　50 | ボール慣れゲームオリエンテーション |  | ボール操作シュートパストラップシュートゲーム（記録の活用） | グリッド突破ゲーム（仲間の助言）空間に走り込むなどの動きボールとゴール |  | 課題の確認と解決の練習ボール操作空間に走り込む | 簡易ゲーム❶人数・コートルール等の簡易化 | 整理運動・学習の振り返り・次時の確認 | ボール操作の反復練習簡易ゲーム❶の修正　最終リーグ戦Ⅰ | 単元のまとめ最終リーグ戦Ⅱ |
| 評価機会 | 知識 | 　① | （②） | （②） |  | ② |  |  |  |  |  |
| 技能 |  |  | 　① |  | ② | ③ |  |  |  | 総括的な評価 |
| 思考・判断・表現 |  |  |  |  |  | ② | ① |  | ③ |  |
| 態度 |  | ② |  | ① |  |  |  |  |  |  |

※評価は原則１時間に１～２つとし、複数の評価を設定する場合には、評価方法が重複しないように工夫する。

※「技能」及び「思考・判断・表現」の評価は、指導後一定時間経過後の評価をする方がより確実。

※「知識」及び「態度」の評価は、指導した日に評価することも可能。

※評価ための見とりが、十分でなかったものを８時間目で見直す。【例】５時間目の技能を８時間目に再度評価

（２）指導と評価の計画（１年生）例

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 　時間 | 主な学習活動 | 知 | 技 | 思 | 態 | 評価方法等 |
| 　１ |  | 　① |  |  |  | カード |
|  ２ |  | （②） |  |  | ② | 観察・カード |
|  ３ |  | （②） | ① |  |  | 観察・ICT |
|  ４ | 空間に走り込むなどの動き |  |  |  | ① | 観察 |
|  ５ |  | ② | ② |  |  | カード・観察 |
|  ６ |  |  | ③ | ② |  | 観察・ICT |
|  ⑦ | 課題の確認と解決の練習　・ボール操作 |  |  | ① |  | 観察・ICT |
|  ８ |  |  |  |  |  |  |
| ９ |  |  |  | ③ |  | カード・観察 |
|  10 |  |  |  |  |  | 観察・カード |

※学習活動には主な生徒の活動を記述。

※「習得場面」と「活用場面」を学習状況に応じて設定すること。

６　具体的な指導内容と「単元の評価規準」（１年生）例

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識及び技能 | 思考力，判断力，表現力等 | 学びに向かう力，人間性等 |
| 知識 | 技能 |
| ゴール型球技は、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを放ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うことが楽しい運動であること。①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 | ゴール方向に守備者のいない位置に移動した時にシュートを打つこと。①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。（上）指導すること、（下）評価すること、　　　　という原則。※４にある「単元の評価規準」を用いる。 | 成功例、つまずき例などの事例や、シュート、パス、 キープのポイントを提示し、 仲間の動きと比較し、伝えること。①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。※学習指導要領解説を参照のこと | 仲間の学習を援助することは、自己の能力を高めたり仲間との連帯感を高めて気持ちよく活動したりすることにつながるという目的に適した仲間との関わり方があること。① 練習の補助をたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 |

７　本時の展開（７時間目／１０時間中）

※教師の立場で記入する。

（１）本時のねらい

・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けての運動の取り組み方を工夫すると

ともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

（２）本時の学習評価

・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えてい

る。

※評価規準の判定基準「Ｂ」を明記すること。

（３）学習過程

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 学習内容及び学習活動 | 評価規準及び評価方法 |
| はじめ○分 | １　前時を振り返る。２　用具の準備、準備運動３　本時のねらいと評価項目の確認めあて：○○○○○○○○○○○　しよう　（※生徒の立場で書く）※「Ａ」は「Ｂ」より質的な高まりを意識して設定する。評価：　　　　　　　　　　　　　　　　　　（　　　　） | ※評価規準の判定基準「Ｂ」を明記すること。※目指す姿がＢ評価のため、1番上に書く。 |
| なか○分 | ４　活動Ⅰ・提示されたシュート、パス、 キープのポイントの成功例、つまずき例などの事例を仲間の動きと比較チームごと◇ボール操作　◇空間に走り込む（A鳥かご・Bセンタリング・C 2対1・Dシュート練習）◆動きを撮影し課題や良いところを伝える。　　　※「習得場面」と「活用場面」を学習状況に応じて設定すること　　　　　　　５　活動Ⅱ・簡易ゲーム❶人数・コートルール等の簡易化◆動きを撮影し課題や良いところを伝える。 | おおむね満足・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。十分満足・提示された動きのポイントや場面ごとでのつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。努力を要する生徒への手立て・例（動画）を示し、動きのポイントを確認させる。その上で、伝えることに気付かせる。 |
| まとめ○分 | ６　整理運動、用具の片付け７　本時の振り返り | ※「Ｃ」となる生徒の姿を想定し、具体的な手立てを記入する |

○はじめ→（導入）　なか→（展開）でも良い。

※本時のねらい、生徒のめあて、学習内容及び活動、評価規準及び評価方法を関連付けること

※ボリュームイメージ案（全５ページ）

（１ページ）１～３

１　指導する内容　＝　【学習指導要領解説（例示）】を参照

２　指導する内容　＝　評価の内容

３　例示にある内容をどんな方法で教えるのか　＝　指導資料集（文部科学省）等の指導書を参照。

この順番で考えると指導内容が絞られる。

　（２ページ）４、５（１）

　（３ページ）５（２）

　（４ページ）６

　（５ページ）７